



Tokyo Gakugei University Repository
東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	養護教諭の専門職的自律性とワーク・エンゲイジメント(論文要旨)
Author(s)	籠谷,恵
Citation	
Issue Date	2016-03-15
URL	http://hdl.handle.net/2309/145695
Publisher	
Rights	

氏 名 : 籠谷 恵
専攻分野の名称 : 博士 (教育学)
学位記番号 : 博甲第 276 号
学位授与年月日 : 平成 28 年 3 月 15 日
学位授与の要件 : 学位規則第 4 条第 1 項該当 課程博士
学位論文名 : 養護教諭の専門職的自律性とワーク・エンゲイジメント
論文審査委員 : (主査) 教授 朝倉 隆司
(副査) 教授 保坂 亨 教授 中下 富子
准教授 鈴木 直樹 教授 戸部 秀之

学位論文要旨

本研究の目的は、第 1 に養護教諭の専門職的自律性尺度を開発し、信頼性と妥当性を検討すること、第 2 に養護教諭の専門職的自律性と仕事に関連したポジティブな心理的状态であるワーク・エンゲイジメント (WE) の関連を明らかにすることである。

第 1 章では、養護教諭の専門職的自律性における問題を検討するため、養護教諭の歴史的な文脈に即して専門職的自律性の位置づけと問題を明らかにし、専門職的自律性に関連した理論や先行研究を整理したうえで、今後の研究に向けた課題を提示した。養護教諭は、歴史的に専門職的自律性を発揮することが認められない時代もあったが、近年は養護教諭の専門性への期待が高まり、法的にも学校現場においても自律的な判断と職務遂行が求められるようになったことを明らかにした。次に、養護教諭の専門職的自律性の研究に向けた今後の課題を明らかにするため、理論的パースペクティブとして、自己決定理論を取り上げて説明した。先行研究は、看護師と教師の専門職的自律性の尺度開発、関連要因に関する研究を中心に検討した。今後は先行研究を参考に、養護教諭の専門職的自律性の構成概念や特性を明らかにすることが必要であると考えた。

第 2 章では、養護教諭の専門職的自律性尺度の開発に向け、養護教諭の専門職的自律性の概念枠組みを明らかにすることを目的とした。そのため、看護師の専門職的自律性に関する文献から概念枠組みを整理し、それを参考に、養護学の関連論文や養護教諭へのインタビューを行い、養護教諭の専門職的自律性の概念枠組み (試案) を作成した。結果、養護教諭の専門職的自律性の上位の構成概念は、【裁量】、【協働】、【職業倫理】、【成熟性】、【変革】の 5 つにまとめられた。

第 3 章では、第 2 章で作成した概念枠組みをもとに養護教諭の専門職的自律性尺度を作成し、信頼性と妥当性を検討することを目的とし、養護教諭の専門職的自律性を 5 つの領域 (裁量、協働、変革、職業的精神、成熟性) から構成される概念として尺度開発を試みた。探索的因子分析と確認的因子分析により 2 回の本調査のデータを分析し、養護教諭の専門職的自律性尺度は、裁量領域 (19 項目) は 5 因子、協働領域 (12 項目) は 2 因子、変革領域 (11 項目) は 3 因子、職業的精神領域 (18 項目) は 5 因子、成熟性領域 (8 項目) は 3 因子の合計 68 項目から構成されることを明らかにした。尺度の信頼性は、クロンバックの α 係数を確認し、概ね良好であった。妥当性は、構成概念妥当性と基準関連妥当性を概ね確認できた。

第4章では、第3章で開発した養護教諭の専門職的自律性尺度を使用し、WEとの関連を検討した。養護教諭の専門職的自律性とWEの関連を明らかにするため、年代、経験年数、学歴等の基本属性でコントロールしたうえで、養護教諭の専門職的自律性の5領域を個別に投入し、一般化線形モデルにより分析した結果、すべての領域がWEと有意な関連があった。さらに具体的に検討するため、5領域の下位尺度を個別投入した結果、成熟性領域の1つの下位尺度を除き、すべてにおいてWEと有意な関連がみられ、養護教諭の専門職的自律性はWEの向上にとり重要な意味をもつことが明らかになった。

本研究はいくつかの限界を有する。養護教諭の専門職的自律性尺度に関して、概ね信頼性と妥当性が確認され、既存の尺度のなかでは養護教諭の専門職的自律性を測る最も適した尺度であると考えられる。しかしながら、2回の調査対象は異なり、尺度項目のワーディングが修正されていること、多元的尺度における因子の弁別性に課題があることから、今後調査を重ね、信頼性と妥当性を検証していくことが必要である。また、養護教諭の専門職的自律性とWEの関連について統計的に明らかにしたが、養護教諭の専門職的自律性尺度が開発途上であるため、本研究結果の一般化には慎重になる必要がある。

本研究の限界をふまえたうえで、意義を2点挙げる。1点目は養護教諭の専門職的自律性尺度の開発を試み、その測定を可能にしたことである。これまで養護教諭の専門職的自律性の重要性は指摘されていたものの、実証的に明らかにされてこなかった。本研究では、2回の調査を経て養護教諭の専門職的自律性尺度の開発を試み、概ね信頼性と妥当性を確認することができた。今後は、養護教諭の専門職的自律性の向上に向け、養成教育等で活用することが期待される。2点目は、養護教諭の専門職的自律性を高めることがWEの向上につながる可能性を明らかにしたことである。自律性とWEの関連については、他領域の先行研究で明らかにされていたが、養護教諭に関する研究はなかった。これまでの養護教諭のメンタルヘルスに関する研究では、ストレス等のネガティブな側面に着目した研究が中心であったが、本研究ではポジティブな心理的状态であるWEを取り上げ、養護教諭の専門職的自律性との関連を明らかにした点で意義がある。